2022年3月期
決算説明会

2022年5月25日

ワイエイシイホールディングス 株式会社

（証券コード：6298　東証プライム）

https://www.yac.co.jp

Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

▲将来見通しに関する記述についての注意事項

このプレゼン資料で述べる将来の当社に関する見通しは、現時点での情報を元に作成したものです。

当社グループのお客様である半導体等の業界は技術革新のスピードが速く、競争の激しい業界です。

また、世界経済、為替レートの変動、各業界市況、設備投資の動向は、当社グループの業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。

したがいまして、実際の売上高および利益は、このプレゼンテーション資料に記載されている予想数値とは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。

Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

説明会概要

1．2022年3月期通期決算総括	HD代表取締役社長　百瀬　武文
2．2022年3月期通期決算概要	HD取締役　畠山　督
3．2023年3月期目標と戦略	HD代表取締役社長　百瀬　武文
4-①メカトロニクス関連事業	HD取締役　伊藤　利彦
-②ディスプレイ関連事業	テクノロジーズ社長　村野　恒利
-③産業機器関連事業	マシナリー社長　副島　幸雄
-④電子機器関連事業	HD取締役　大倉　章裕
5．ワイエイシイグループの今後の展開	HD代表取締役社長　百瀬　武文
6．Q&A	

Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

１．2022年3月期通期決算総括

ワイエイシイホールディングス株式会社

代表取締役社長　　百瀬　武文

Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

１．決算の総括

１．営業利益･最終利益の大幅改善

①前年比大幅増益。（前年比　営業利益2.15倍、最終利益3.3倍）
②営業利益は３期ぶりに15億円以上を達成

２．売上は微減

①世界的な部品納期遅延の影響が想定より大きく、前年実績をわずかに下回る
②好調な５Ｇ関連やAI、IoT、電気自動車、パワー半導体関連が牽引
③人工透析装置や電力会社向けは引き続き安定的に推移

３．粗利率大幅向上

粗利率が前年の21.1%から26.9%に大幅改善
ここ数年の指導強化や、購買部門一元化の成果が出つつある

４．増配

①年間配当金は従来の20円から36円に増配（会社提案）
②2023年3月期年間配当は50円を予定

５．その他

①ディスプレイ部門の改革が進み、わずかながら黒字化を達成
②自己資本比率が5年ぶりに40%台を回復
③いくつもの期待の量産新製品の開発が進んでいる

Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

2．2022年3月期通期決算概要

ワイエイシイホールディングス株式会社

取締役　常務執行役員

管理統括本部長　　畠山　督

Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

2-① 連結損益状況【P/L】 総括

【トピックス】

減収増益： 粗利率改善による増益効果が各段階利益を押し上げ

粗利益増額（＋1,026M）＝減収（▲295M）＋粗利率改善（＋1,321M）

（単位：百万円）

	2020/3期 実績①	2021/3期 実績②	2022/3期 実績③	前年対比（③－②）		業績予想（1/19）対比
				増減額	増減率	（億円）
売上	21,914	24,195	22,796	▲ 1,398	-5.8%	88%（260）
粗利	4,300	5,107	6,133	1,026	20.7%	
粗利率	19.6%	21.1%	26.9%			
営業利益	▲ 361	727	1,566	838	115.0%	87%（18）
営業利益率		3.0%	6.9%			
経常利益	▲ 443	739	1,491	751	102.0%	88%（17）
当期利益	▲ 958	337	1,107	769	228.0%	100%（11）
EPS（円）	▲ 106.08	37.19	121.49	CF：186.21（2023/3期予）		

Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

2-② 連結損益状況【P/L】 ご参考

【過去5年間の損益状況推移】

各段階利益率は過去5年間で最高値

（単位：百万円）

	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期
売上	28,871	36,025	21,914	24,195	22,796
粗利	6,141	6,754	4,300	5,107	6,133
同率	21.3%	18.7%	19.6%	21.1%	26.9%
営業利益	1,074	1,842	▲ 361	727	1,566
同率	3.7%	5.1%	―	3.0%	6.9%
経常利益	955	1,852	▲ 443	739	1,491
当期利益	403	1,094	▲ 958	337	1,107
同率	1.4%	3.0%	―	1.4%	4.9%

Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

2-③ 連結損益状況【P/L】 セグメント情報

【トピックス】

ディスプレイ部門は3期振りに**黒字転換**（19/3期:+262M）

メカトロ、電子機器**好調持続**

（単位：百万円）

	セグメント				小計	調整	合計
	メカトロ	ディスプレイ	産業機器	電子機器			
2020/3期売上	8,412	4,570	1,768	7,162	21,914		21,914
同営利	262	▲ 1,047	▲ 13	289	▲ 509	147	▲ 361
2021/3期売上	10,168	6,686	831	6,524	24,195		24,195
同営利	573	▲ 262	▲ 259	469	521	206	727
2022/3期売上	10,866	3,639	1,021	7,269	22,796		22,796
同営利	957	10	▲ 171	629	1,425	141	1,566

Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

2-④　連結損益状況【B/S】

（単位：百万円）

	2020/3期	2021/3期	2022/3期	増減
流動資産	30,522	29,166	28,865	▲ 301
固定資産	8,583	8,341	8,131	▲ 209
総資産　計	39,135	37,508	36,997	▲ 510
流動負債	17,446	15,388	13,824	▲ 1,564
固定負債	7,623	7,993	7,848	▲ 145
負債　計	25,070	23,382	21,672	▲ 1,709
純資産　計	14,065	14,125	15,324	1,199

【トピックス】

2017/3期（42.5%）以来の40%水準確保

	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	増減
自己資本比率	37.0%	35.9%	35.3%	37.5%	41.3%	3.8%

Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

3．2023年3月期目標と戦略

ワイエイシイホールディングス株式会社

代表取締役社長　　百瀬　武文

Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

3-1 2023年3月期の目標（事業計画）

（単位：百万円）

	2020年3月期（実績）	2021年3月期（実績）	2022年3月期（実績）	2023年3月期（見込）	前年比増減額（見込）	前年比増減率（見込）
売上高	21,914	24,195	22,796	30,000	7,203	31.6%
営業利益	△361	727	1,566	3,000	1,433	91.5%
経常利益	△443	739	1,491	2,800	1,308	87.7%
当期純利益	△958	337	1,107	1,700	592	53.5%
1株当たり当期純利益（円）	△106.08	37.19	121.49	186.21	64.72	53.3%
年間配当金（円）	20.00	20.00	36.00	50.00	14.00	38.9%

会社提案

Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

3-2 2023年3月期の戦略

（１）受注拡大 ・・・・・ 営業改革

①受注拡大推進委員会による指導強化
②受注額UPのため、グループ会社間の連携と競争を促進

（２）粗利率UP ・・・・・ 稼働率UP、意識改革

①受注拡大により直接要員の手待ち時間をなくす
②購買部門一元化による、発注量の増加によるコストダウン効果
③粗利率UPへの意識を全社員に浸透させる

（３）経費の最適化

①人事総務・経理部門のグループ一元化を推進中
②社内利用品の発注を購買統括部に一元化し、コストダウンを図る

（４）量産新製品、Ｍ＆Ａ

①ＳＤＧｓの流れに沿った量産新製品の開発を推進

- ・人工透析装置
- ・マグネシウム電池
- ・海水淡水化装置
- ・アルツハイマー型認知症早期発見装置
- ・光触媒性能判定装置
- ・紙包装機
- ・その他

Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

セグメント情報

4-①　メカトロニクス関連事業

ワイエイシイホールディングス株式会社

取締役　専務執行役員

ワイエイシイメカトロニクス株式会社

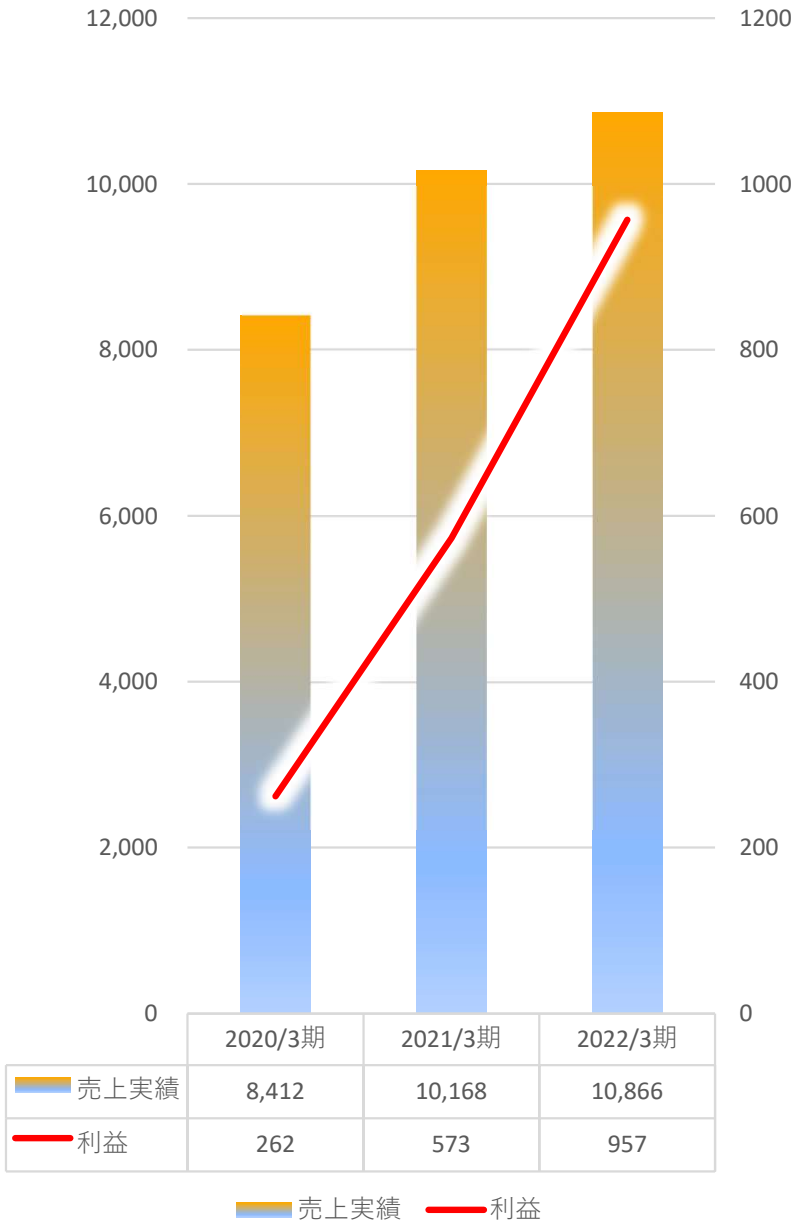
代表取締役社長　　伊藤　利彦

Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

4-① メカトロニクス関連事業 通期分析

2022年3月期通期分析

- **３年連続増収増益**
- **前年度比は好調だが、売上予算は未達**
- 売上未達は、当社の主力製品たるバニッシャー装置販売に起因
- 売上未達の要因
  - ①期ズレ：サプライチェーン混乱による顧客の投資計画の変更
  - ②一部メディアプレイヤーの事業撤退：ドライブメーカーのメデイアの内製化により事業逼迫
    - ＊撤退分はドライブメーカーからの需要増として展開すると予想（当社への影響はない）



Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

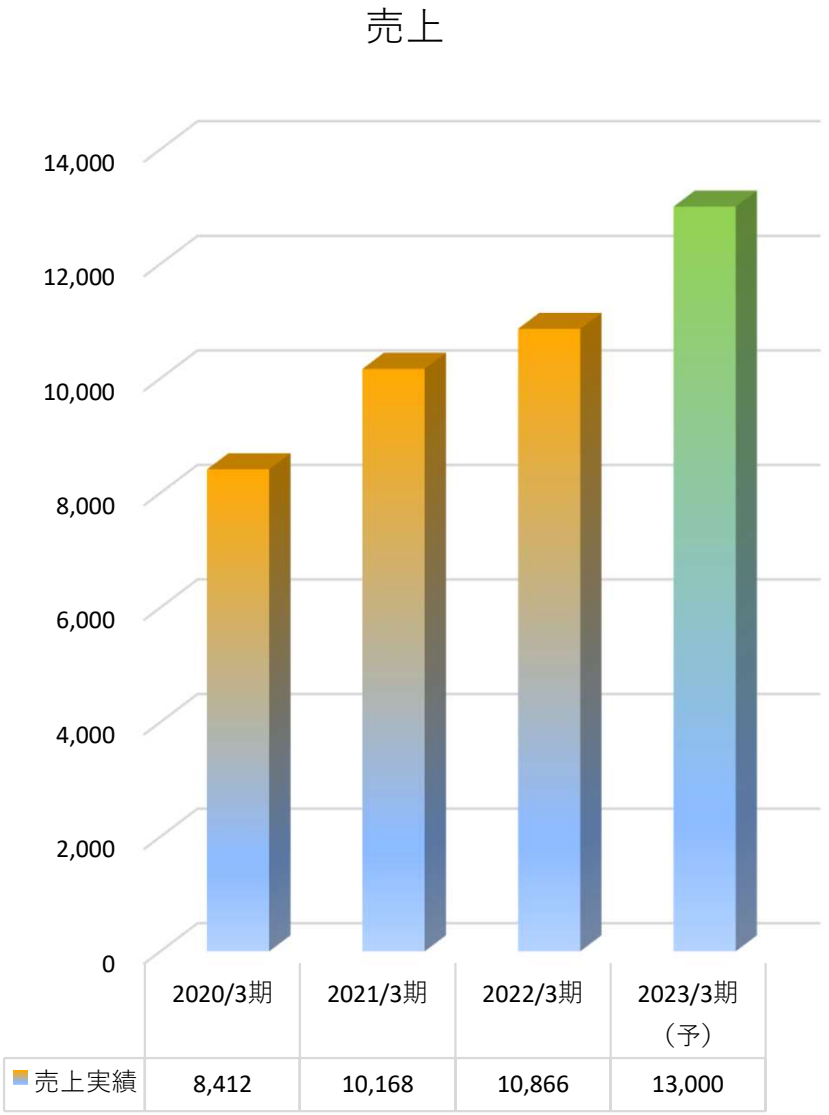
4-① メカトロニクス関連事業　今期の目標

2023年3月期目標

- **売上130億円**
- 事業環境は、全５社において前年度に引き続き良好

  メカトロニクス社：バニッシャー、パワー半導体
  ガーター社　　：キャリアテープ、自動機
  ビーム社　　：パワー半導体、イオンミリング
  ダステック社　　：切断機、リセール
  YSS社　　：バニッシャー、コンベアシステム

- キーワード：省エネ、省電力、極小化（ナノ）
- SDGsに寄与する装置開発・量産化・販売
  マグネシウム電池（6月報告予定）



Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

4-① メカトロニクス関連事業 課題と施策

2023年3月期課題と施策

- 市場：良好
- 課題①**資材調達**

  受注残分はほぼ確保済み

  施策　①**早期受注**

  ②納期の早期化

- 課題②リードタイムの早い商材（CT）の**販売強化**

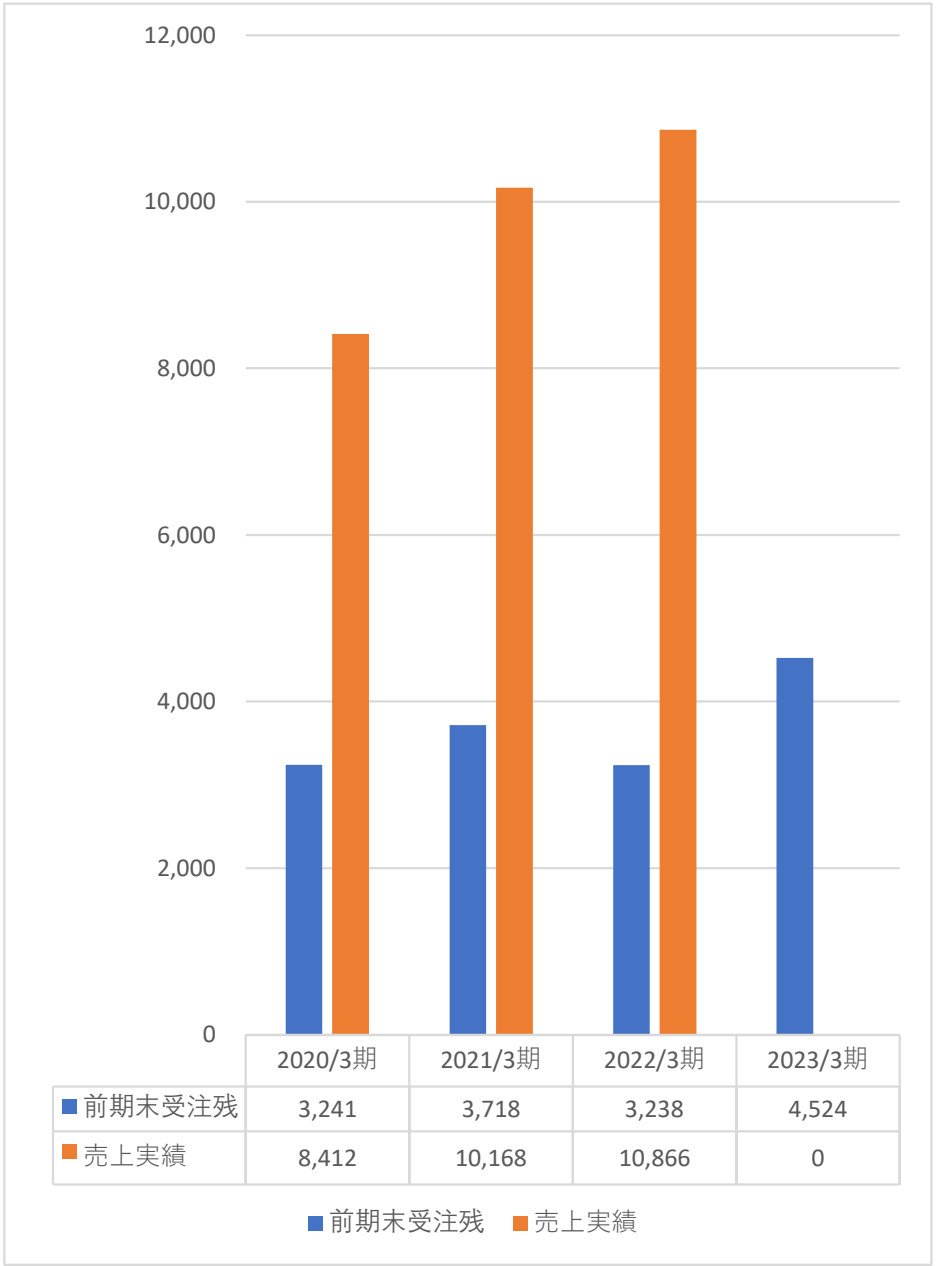
  施策　①工場配置、設備配備の効率化

  ②川上への投資

- 課題③SDGs対応装置の開発、量産化

  施策　①開発促進

  ②販売戦略の構築



	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期
前期末受注残	3,241	3,718	3,238	4,524
売上実績	8,412	10,168	10,866	0

Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

セグメント情報

4-②　ディスプレイ関連事業

ワイエイシイテクノロジーズ株式会社

代表取締役社長　　村野　恒利

Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

4-② ディスプレイ関連事業 通期分析

2022年3月期通期分析

●受注

ディスプレイパネルの需要拡大に適応し、受注高は予算値には届かないものの、前年度比239.3%増の高水準な結果となった。

おもには、OLED向け、酸化物TFT等の高付加価値プロセス向け、IT製品の拡大に伴う設備投資需要に当社製品が適合したことが要因。

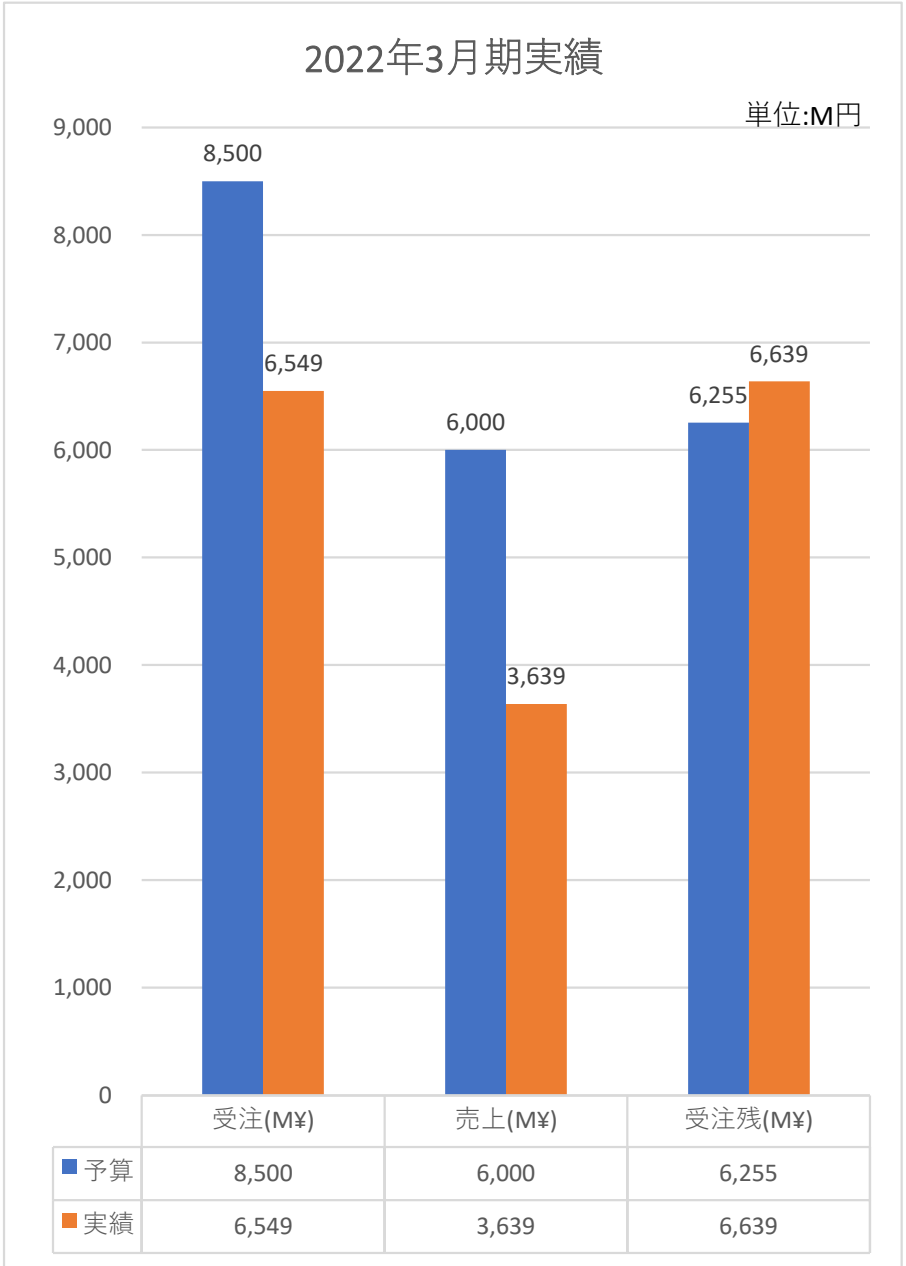
●売上

当社顧客の投資計画の変更により、投資時期に遅延が発生したことが売上高減少の主要因。また、サプライチェーンの混乱や、輸送の遅延等も重なり、売上高は予算に対して大きく未達成、前年度比54.4%の結果となった。

ディスプレイセグメントでは、安定した経営基盤の確立に向け、利益体質強化への継続した取り組み実施。2022年3月期は減収となるも、セグメント利益を確保した。

●受注残

2023年3月期売上へ受注残高は、2022年3月期の売上高減少と、受注高増加に伴い、前年度比177.5%増、予算値をクリア。



Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

4-② ディスプレイ関連事業 課題と施策

2023年3月期課題と施策

●FPD市場の設備投資状況

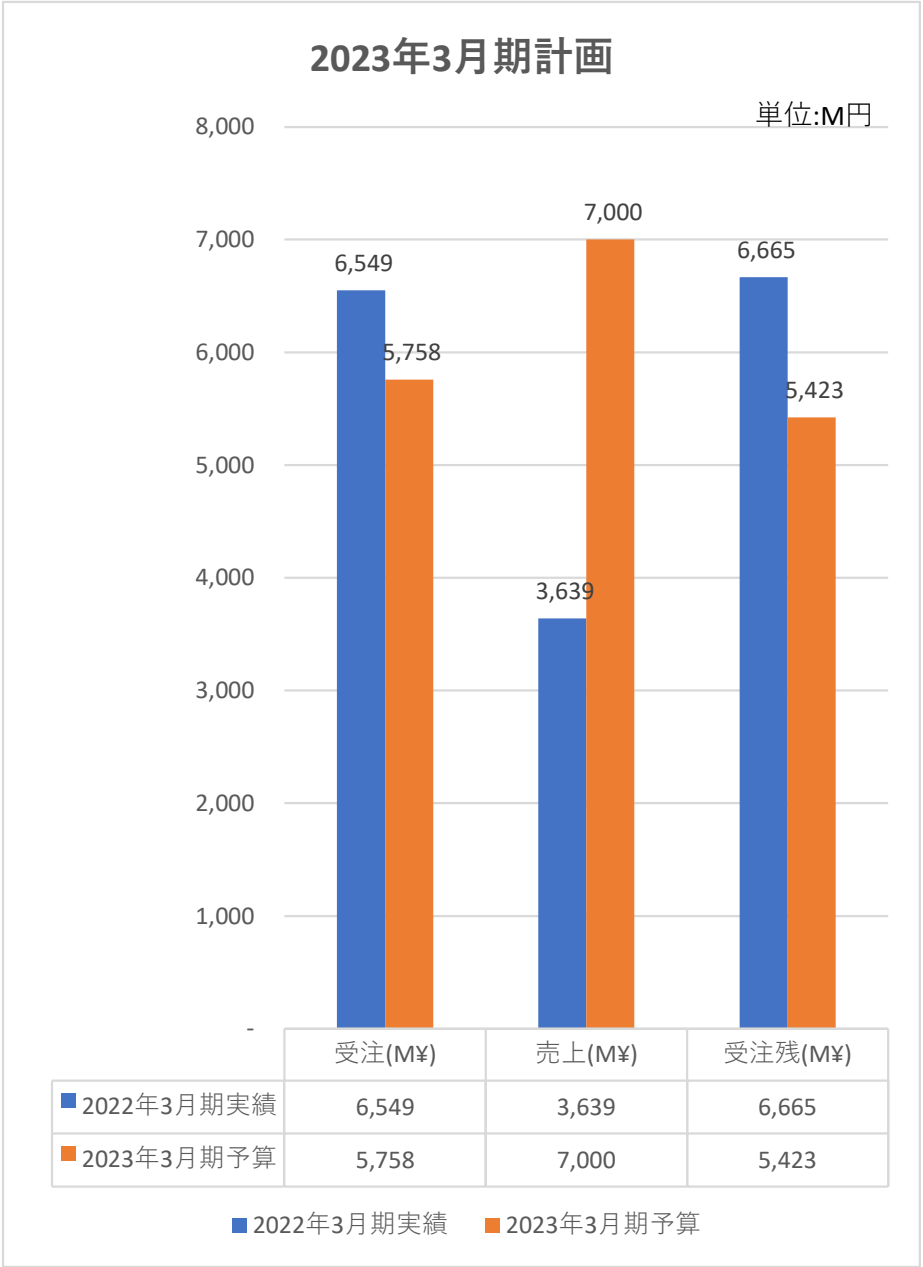
・ディスプレイパネルの需要は継続的に拡大する見込み。
最大市場の中国を中心にFPD製造装置へ投資を継続。
・ハイエンド用や新技術パネルの需要増加、成長は続く。
・LCDは減少加速を予測されていたが、TV用とITパネルの
需要増加により一時的ではあるが投資を継続。

●受注と売上

・受注計画は前年度比約90%計画。OLEDや酸化物TFT
等の高付加価値プロセス向け、LCD増産向けの装置を拡販。
・売上計画は客先の投資遅延、サプライチェーンの混乱等、
前年度からの期ズレも加え、**前年度比倍増を見込む**。

●課題と施策

・価格高騰、長納期化等、サプライチェーンの混乱はさらに
深刻化。ワイエイシイグループ一括購買で難局を乗り切る。
・コストアップは販売価格へ反映させ、粘り強い交渉を展開。
・アフタービジネス拡張を特に重視し、利益率アップを推進。
・新技術パネルの需要増に向け、大型パネル装置の開発を
実施、2024年3月期の売上拡大を図る。



Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

セグメント情報

4-③　産業機器関連事業

ワイエイシイマシナリー株式会社

代表取締役社長　　副島　幸雄

Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

4-③ 産業機器関連事業　通期分析と施策

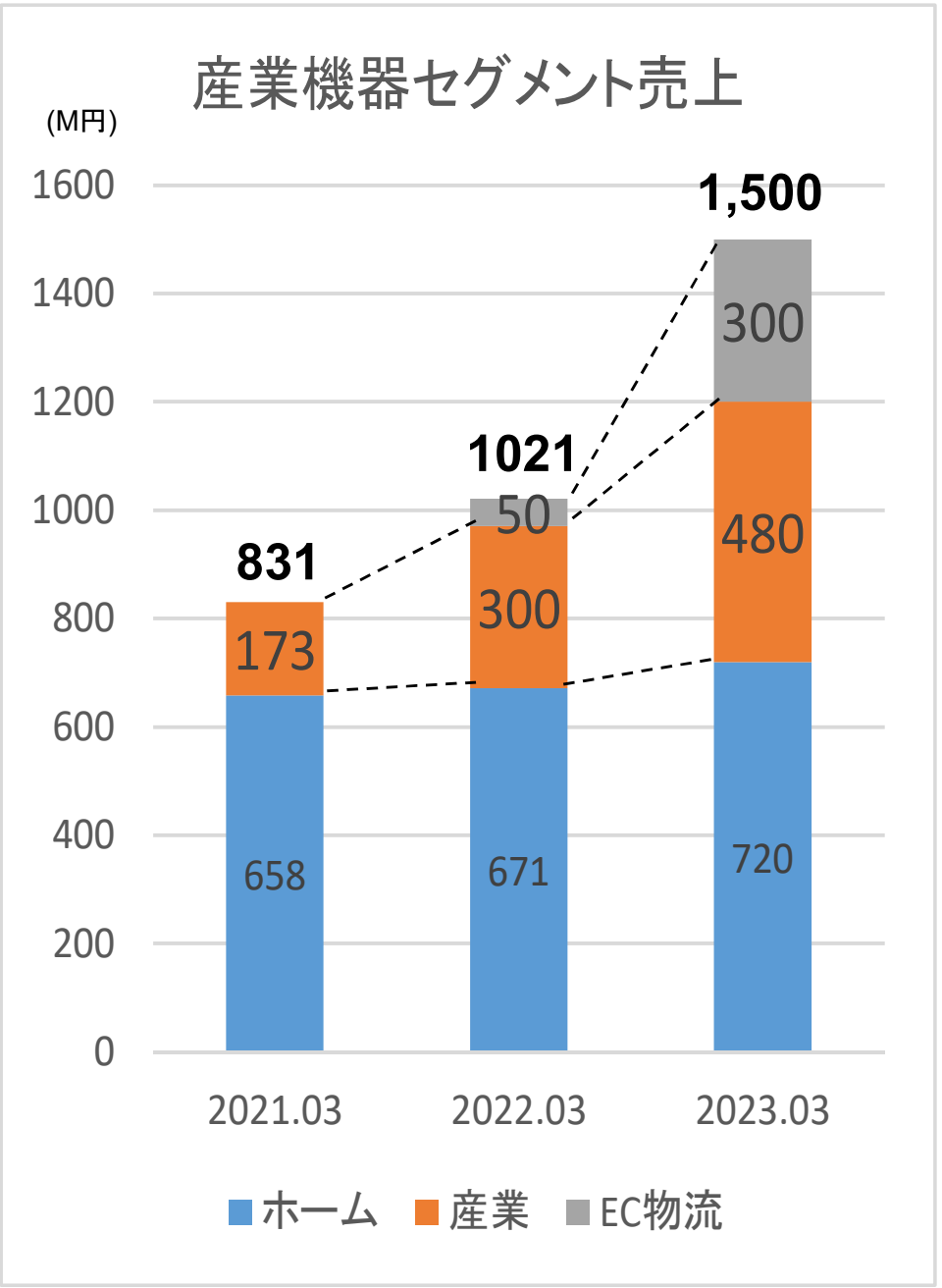
2021年度通期分析

●クリーニング関係は、セグメント利益はマイナスである。
●増収ではあるが、事業転換が未達。

●ホームクリーニング向けは、店舗や工場の統合等で市場減少であるが売上は横這いとなった。
ホームクリーニングの中では、買い替え需要の取り込みを増やしたことが大きい。

●産業クリーニング(リネン)の分野で前年比売上増加。産業クリーニングでは、コロナ過で医療用ユニフォームは伸び、ホテル用は稼働率がまだ伸びていない。しかし仕上げ機であるトンネルフィニッシャー、人体フォーマー、タタミ機、包装機の売上を増加させた。

●昨年度から本格的に進めているEC物流分野はまだ認知度が低い。その中で大手物流会社様と受注に繋がっている。
●世界的にもEC化率はまだ十分成長する分野である。店舗を無くし倉庫から直接販売するビジネスモデル転換は、現在人海戦術が殆どである。
●YACから包装機を通じた自動化の提案をするが、人から自動機に置き換える事については慎重であり売上進捗が遅い。



Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

4-③ 産業機器関連事業　課題と施策

2023年3月期課題と施策

・ホームクリーニングについては、4月より「プラスティック資源循環保護法」が施行され、特定12種においてクリーニング用ハンガーとフィルム包装が問題となっている。ハンガーにおいてはリサイクルも進み施工後更に加速している。問題はフィルム包装であるが、使用量を減少させる薄厚化で脱プラスチック、即ち脱炭素に注力する。薄厚化の新商品を市場投入することで売上を増加させる。

・**産業用クリーニング(リネン)**向へ新製品投入し受注拡大を図っている。大型工場向けの仕上げ状態が良い新型トンネルフィニッシャーの受注は旺盛である。また入荷時の安全性と省人化で注射針とペンや印鑑の洗濯汚染を避けるX線を用いた異物検査装置の開発を終了し販売を始めた。
さらに消毒品の入る袋を自動的に破袋させる装置も開発中である。
このようなラインナップを投入しお客様へ自動化による省人化と安全性をアピールすることで、SDGsを推進出来ることを共有し信頼関係を築く事となる。

・最重要なのはコア技術である包装を駆使し、**EC物流業界への転換**である。フィルムは勿論であるが、脱炭素である紙包装への期待が高い。特に現在紙化においても自動化は必須であり、**紙包装**のデモ機は開発を終了させ発表し大盛況となった。
工程は品出し→集合→包装→ラベリング→(段ボール詰→ラベリング)→発送である。
物流に出来る所から自動機を提案し、お客様の省人化や品質向上を行い受注拡大を行う。まずは得意分野であるアパレル(衣料)の自動機から入り、将来は医薬品や食品包装に一石を投じるべく進めていく。

Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

セグメント情報

4-④　電子機器関連事業

ワイエイシイホールディングス株式会社

取締役

大倉電気株式会社

代表取締役社長　　大倉　章裕

Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

4-④ 電子機器関連事業　通期分析

2021年度通期分析

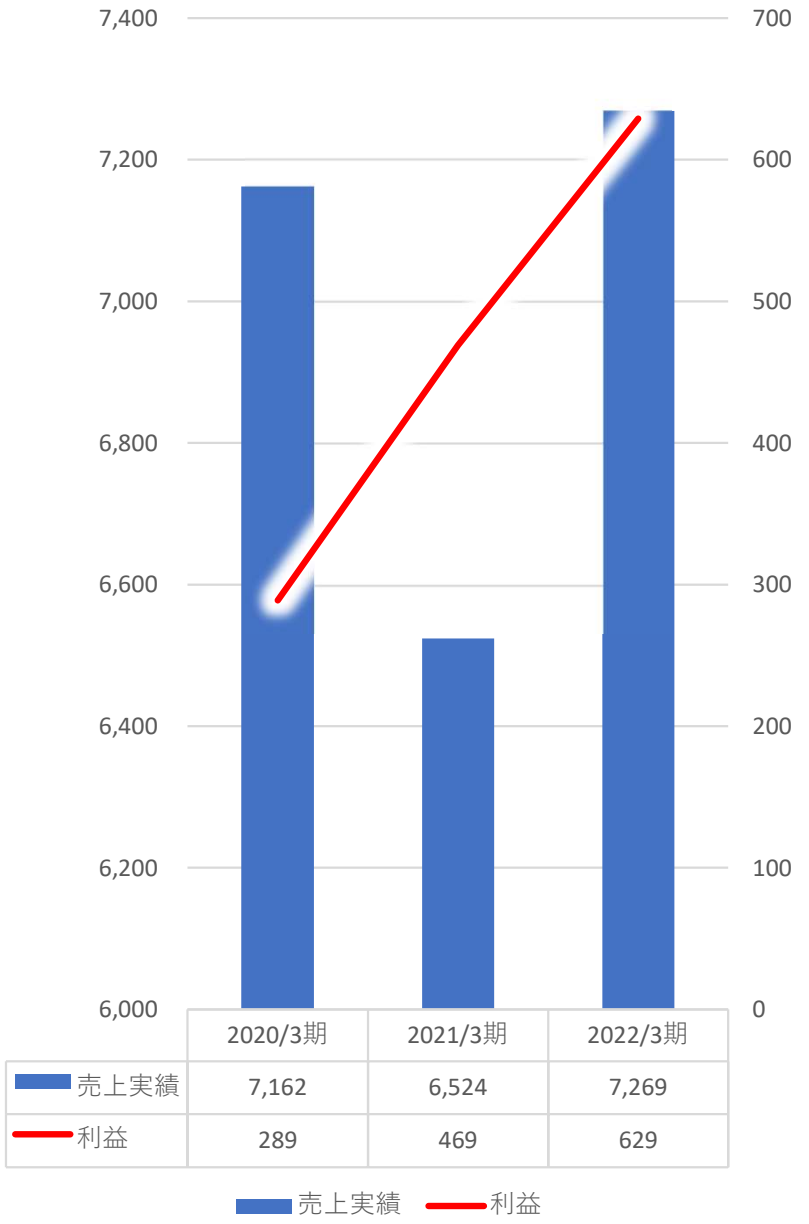
- 電子機器関連事業全体としては、コロナの影響もあり2021年3月期に売上がさがるも、コスト管理の徹底により過去3年増益は確保

- メディカル部門：透析装置は、中南米中心に需要増
  コロナの影響により一時売上下がるも、2022年3月期に売上は回復
  今後も需要増を見込む

- 制御通信、工業計器部門：原油高等による燃料費高騰への対応として、太陽光、洋上風力発電などクリーンエネルギー関連への設備投資の増加

- 半導体業界の旺盛な需要を中心に、計測機器、半導体拡散炉関連の売上も伸びた

単位：M円



Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

4-④ 電子機器関連事業　今期目標、施策

2022年度今期目標と施策

●受注残：過去最高の78億円

●売上高：受注残ベースで見込みがたっている

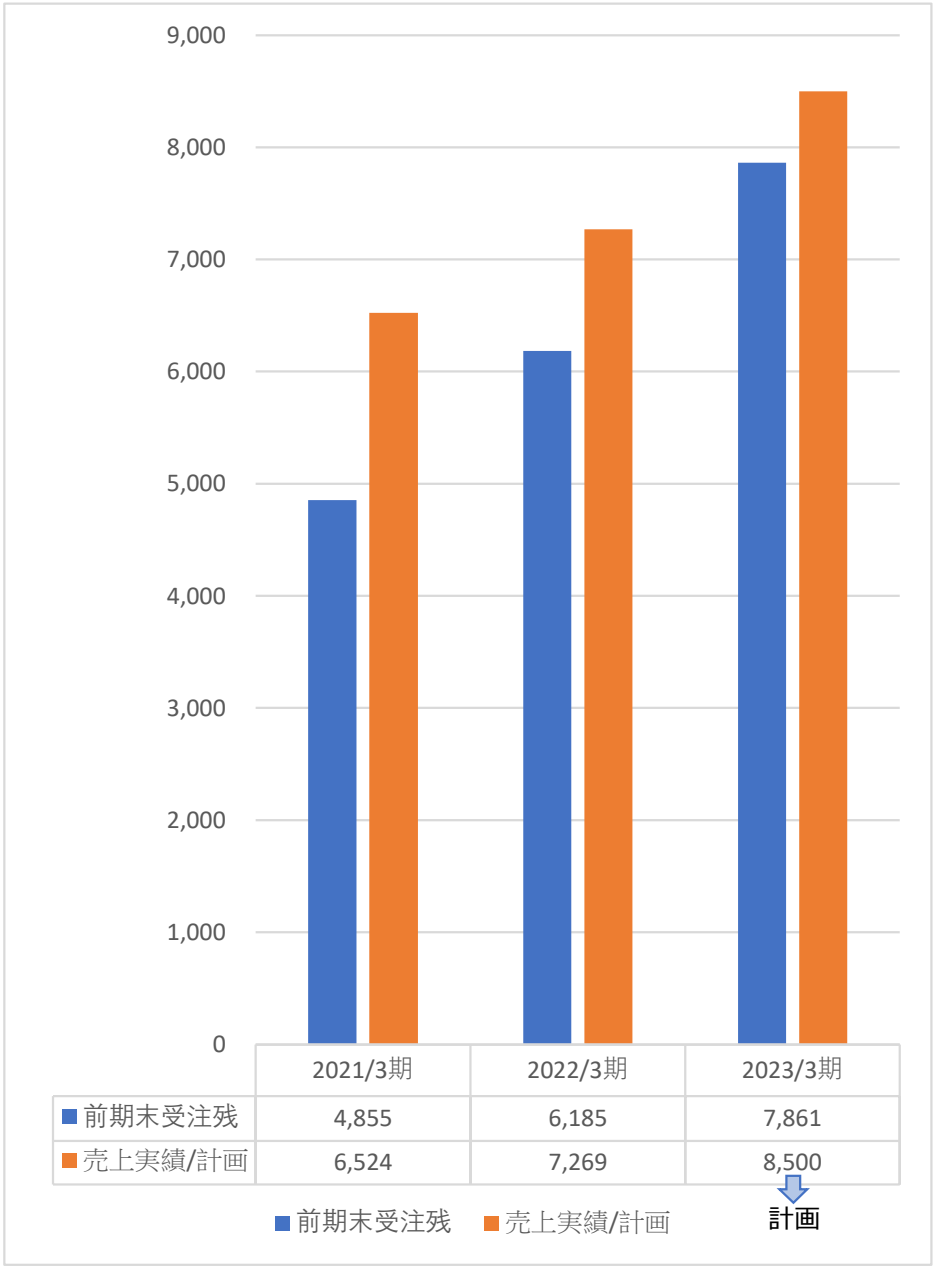
●懸念：部品調達、部材の高騰

・人工透析器：今期中に新透析装置の上市を予定
需要増が見込める中南米市場に対して、
質の高い装置の提供

・制御通信、工業計器事業：クリーンエネルギーの活用、
原油高等による燃料費の高騰などにより、
設備投資の増加

・計測機器：EV等の電子部品の需要増、５G通信関
連の投資、半導体関連の生産増等
により、工場などの新設、増設

単位：M円



Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

5. ワイエイシイグループの今後の展開

ワイエイシイホールディングス株式会社

代表取締役社長　　百瀬　武文

Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

5-1 ワイエイシイグループ　企業理念

【創業理念】
（1973年）
継続発展

1. 技術集約会社
2. 旺盛なバイタリティー
3. リスクに果敢にチャレンジする
4. 少数精鋭主義

【成長理念】
（1985年）
社会貢献

1. 社員の豊かさを追求する （経済的・精神的）
2. 国・地方自治体に、より多く納税する
3. 新製品の創造・提供
4. 地域社会への貢献
5. 株主を優遇する
6. 環境保全のため省資源・省エネルギーを図る

【究極の理念】 ～より多く社会に貢献するために～
（2020年）
SDGs
持続可能な社会へ

1. 社員・グループの成長
2. 全員経営・連携と競争
3. SDGs経営の推進
4. 納税額の拡大

Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

5-2 中期経営計画の進捗状況

1．企業理念を追求する当社の姿

①継続して発展する　・・・・・	部下のためにも
②倒産・赤字は社会悪　・・・	経営者として最も恥ずかしいことである
③社会貢献　・・・・・・・・・・	常に成長し、かつ利益を通じて
④ＳＤＧｓ　・・・・・・・・・・・	持続可能な社会へ、開発中のいくつもの新製品を通じて実現
⑤プライム市場　・・・・・・・・・	成長あるのみ。宿命である。 すべてがハッピー。

2．当社の文化とは

成長へ、そして更なる成長へと、困難な事態にも決してあきらめず、全員経営の理念のもと、明るく元気よく、ポジティブな挑戦を続け、成長への喜びを感じながら、より多く社会貢献を目指す企業集団である。

Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

5-3 中期経営計画の進捗状況

中期経営計画（2021年3月19日発表）の進捗状況

（単位：百万円）

	当初計画			実績及び修正計画		
	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2022年3月期（実績）	2023年3月期（修正計画）	2024年3月期（計画）
売上	30,000	33,000	37,000	22,796	30,000	37,000
メカトロニクス関連	13,470	14,290	16,000	10,866	13,000	16,000
ディスプレイ事業	5,690	7,120	8,000	3,639	7,000	8,000
産業機器関連	3,720	4,020	4,500	1,021	1,500	3,000
電子機器関連	7,120	7,570	8,500	7,269	8,500	10,000
営業利益	1,600	2,310	3,700	1,566	3,000	3,700
営業利益率	5.3%	7.0%	10.0%	6.9%	10.0%	10.0%

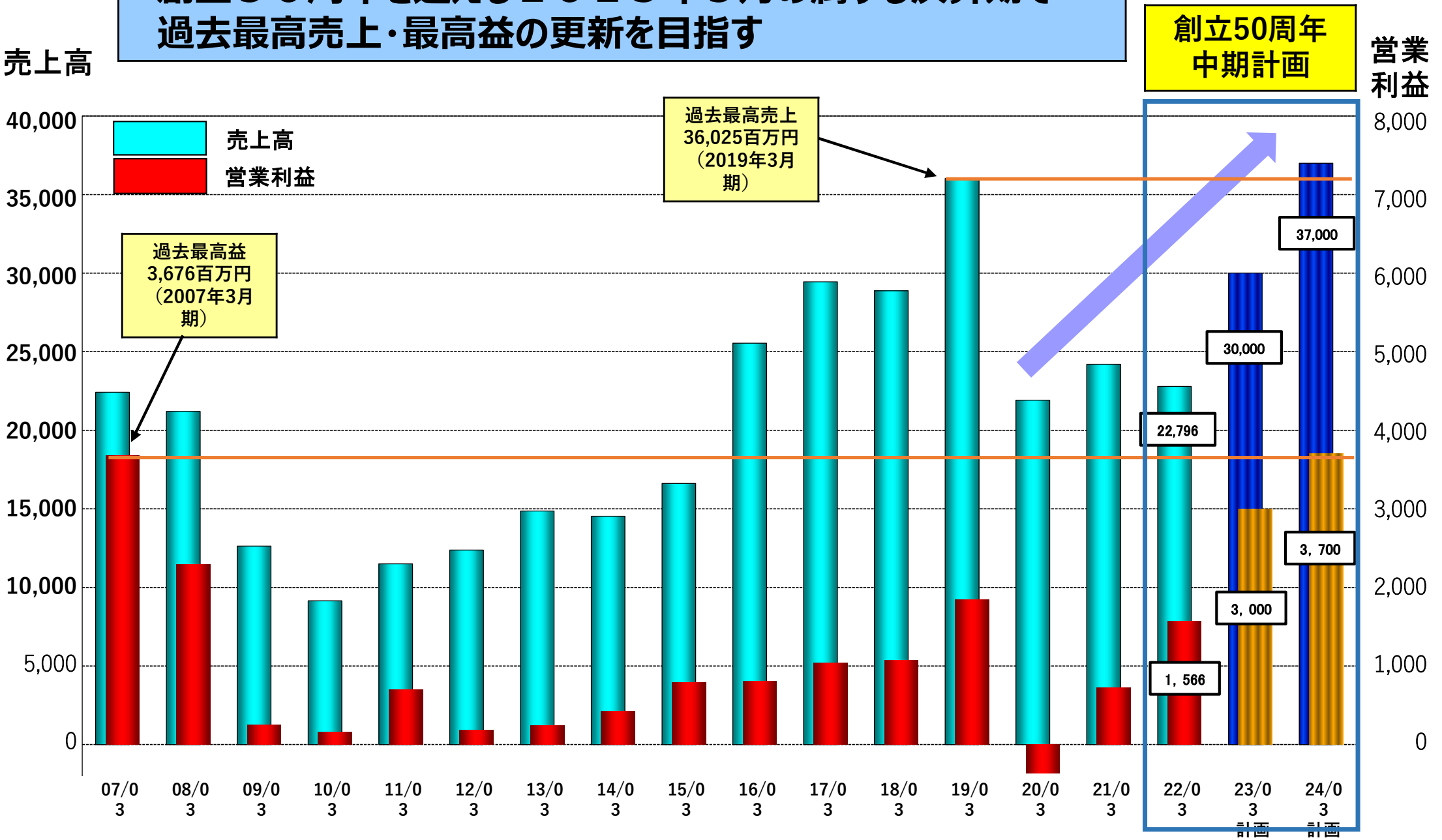
①2023年3月期は、2022年5月13日発表の業績予想に置き換え
②2024年3月期計画は、当初計画のまま据え置き、過去最高売上・営業利益の更新を計画

Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

5-4 過去の業績と中期計画

創立５０周年を迎える２０２３年５月の属する決算期で
過去最高売上･最高益の更新を目指す

（単位：百万円）



Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

5-5 2030年度　1,000億円企業を目指す

2030年度　売上1,000億円企業への大躍進

（1）目標

(1)売上 ・・・・・・・・・・・・・ グループ全体で1,000億円越え
(2)粗利率 ・・・・・・・・・・・ 事業会社平均32%越え
(3)営業利益率 ・・・・・・・ 売上対比15%越え
(4)経営効率 ・・・・・・・・・ １人当り売上7,000万円以上

（2）達成への基本戦略

(1)すべての社員が1,000億円達成で一致している
(2)先導役は「社長会1,000」とする
(3)2030年までの9年間を、3年単位の中期計画に基づき進め、
　成功を勝ち取る
(4)過去の経験に基づき、1,000億を成就するための成長への分野別比率を下記の
　通り定める
　①既存事業による成長　　10%
　②量産新製品の上市による成長　　60%
　③M&A、アライアンスによる成長　　30%
(5)グループ会社の内、6社が売上100億越えを達成

（3）今後の進め方

(1)上期中に一次案のまとめ
(2)今年度中に、現在進行中の量産新製品の動向を踏まえ、決定
(3)創立50周年セレモニー時に、大アピール

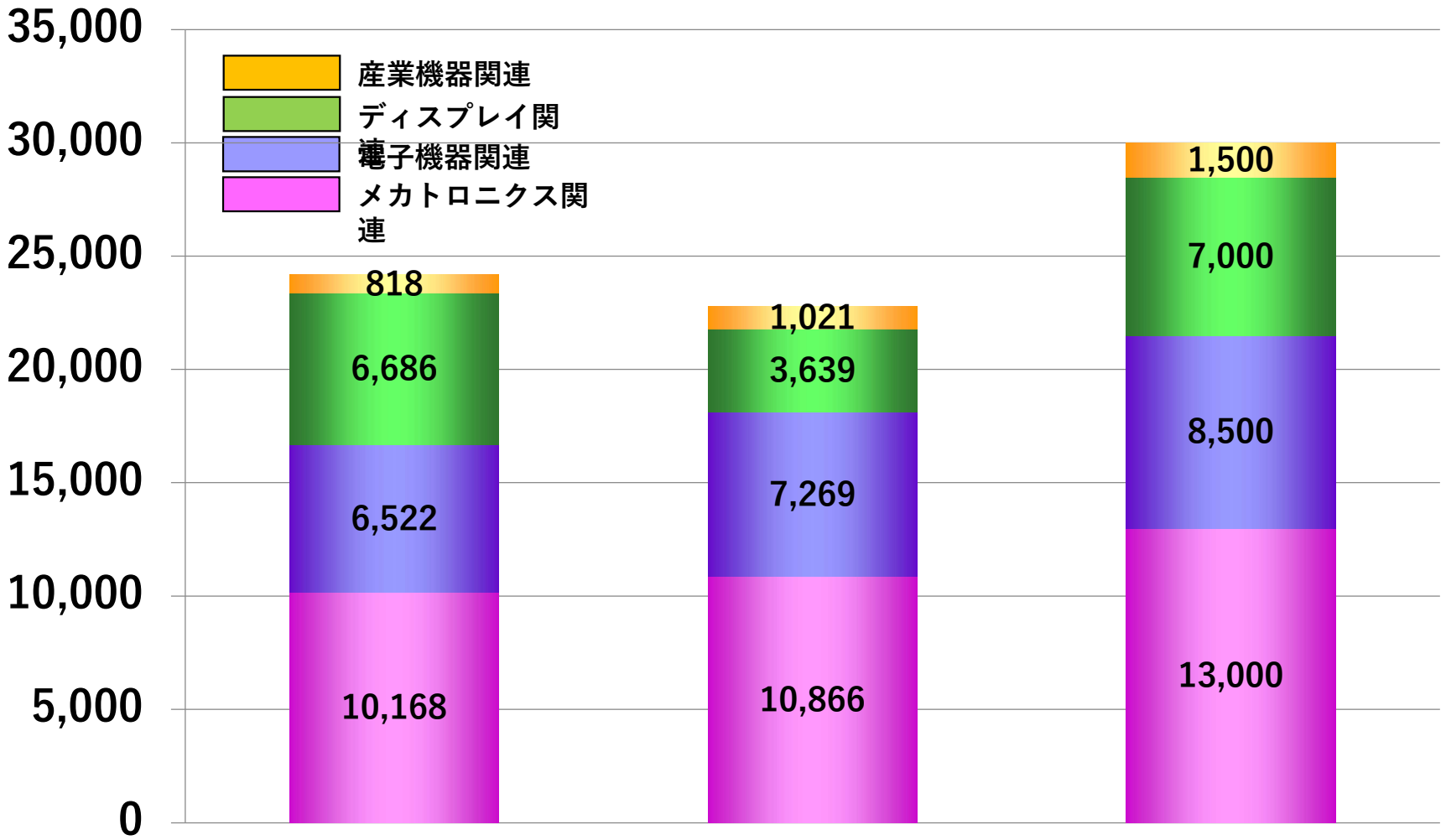
Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

APPENDIX

Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

① 事業別売上計画

（単位：百万円）



2021年3月期（実績）	2022年3月期（実績）	2023年3月期（計画）
通期売上：24,195	通期売上：22,796	通期売上：30,000

Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

② 事業結果

前年比　売上微減も大幅増益

（単位：百万円）

	2021年3月期	2022年3月期	前年比 増減額	前年比 増減率(%)
売上高	24,195	22,796	△1,398	△5.8%
営業利益 （営業利益率）	727 （3.0%）	1,566 （6.9%）	838	115.3%
経常利益	739	1,491	751	101.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	337	1,107	769	228.1%
1株当たり 当期純利益（円）	37.19	121.30	84.11	226.2%
研究開発費	426	518	91	21.6%
設備投資額	502	308	△194	△38.7%
減価償却実施額	587	526	△61	△10.4%

Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

③ 事業別売上・利益

（単位：百万円）

		2021年3月期	2022年3月期	前年比増減額	前年比増減率	備考
メカトロニクス関連	売上	10,168	10,866	697	6.9%	5G関連、EV等向けキャリアテープ、パワー半導体関連が好調
	利益	573	957	383	66.9%	
ディスプレイ関連	売上	6,686	3,639	△3,046	△45.6%	ドライエッチング装置は苦戦も、遠赤外線熱処理装置が堅調に推移
	利益	△262	10	272	―	
産業機器関連	売上	818	1,021	203	24.8%	クリーニング業界から医療リネン事業へ展開し、増収
	利益	△259	△171	87	―	
電子機器関連	売上	6,522	7,269	747	11.5%	電力向け盛業通信機器、人工透析装置が安定的に推移
	利益	469	629	159	34.0%	
HDその他	利益	206	141	△64	△31.5%	
合計	売上	24,195	22,796	△1,398	△5.8%	
	利益	727	1,566	838	115.3%	

Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

④ 事業別受注額・受注残 （連結ベース）

（単位：百万円）

		2021年3月期	2022年3月期	前年比増減額	前年比増減率
メカトロニクス関連	受注額	9,688	12,152	2,463	25.4%
	受注残	3,238	4,524	1,286	39.7%
ディスプレイ関連	受注額	2,263	6,549	4,285	189.3%
	受注残	3,755	6,665	2,909	77.5%
産業機器関連	受注額	821	985	164	20.0%
	受注残	159	123	△36	△22.7%
電子機器関連	受注額	7,853	8,945	1,092	13.9%
	受注残	6,185	7,861	1,676	27.1%
合計	受注額	20,626	28,632	8,006	38.8%
	受注残	13,338	19,174	5,835	43.8%

Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

⑤ 貸借対照表のレビュー

＜資産＞

（単位：百万円）

	2021年3月	2022年3月	増減額	備考
現預金	10,009	8,695	△1,313	借入金の返済進む
売上債権	10,195	10,572	376	
棚卸資産	8,377	8,846	468	
その他流動資産	584	751	167	
固定資産	8,341	8,131	△209	
資産合計	37,508	36,997	△510	

＜負債･純資産＞

（単位：百万円）

	2021年3月	2022年3月	増減額	備考
仕入債務	3,937	5,219	1,281	受注の増加
その他流動負債	11,451	8,604	△2,846	借入金の返済進む
固定負債	7,993	7,848	△145	
純資産	14,125	15,324	1,199	純利益の増加
負債・純資産合計	37,508	36,997	△510	

Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

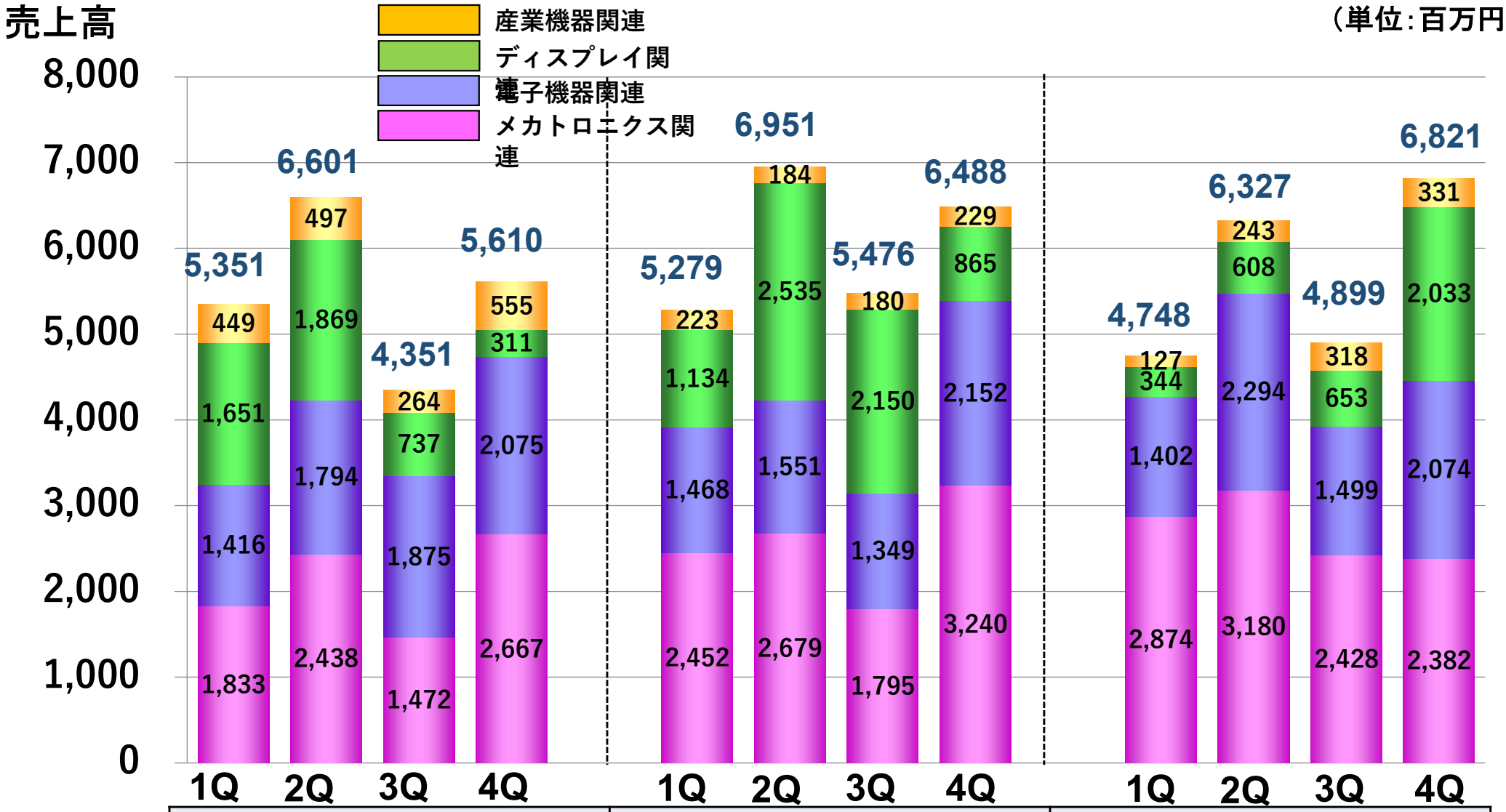
⑥ キャッシュフローのレビュー

（単位：百万円）

	2021年3月期	2022年3月期	主な増減要因	
営業活動によるC/F	3,477	1,093	増加	税金等調整前当期純利益・仕入債務・減価償却の増加
			減少	前受金・棚卸資産の減少、法人税
投資活動によるC/F	△540	△195	増加	
			減少	有形固定資産の取得による支出
財務活動によるC/F	548	△2,302	増加	長期借入金の増加
			減少	長期・短期借入金の返済
現金及び現金同等物の期末残高	9,932	8,619	前年度末比1,312百万円減少	

Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

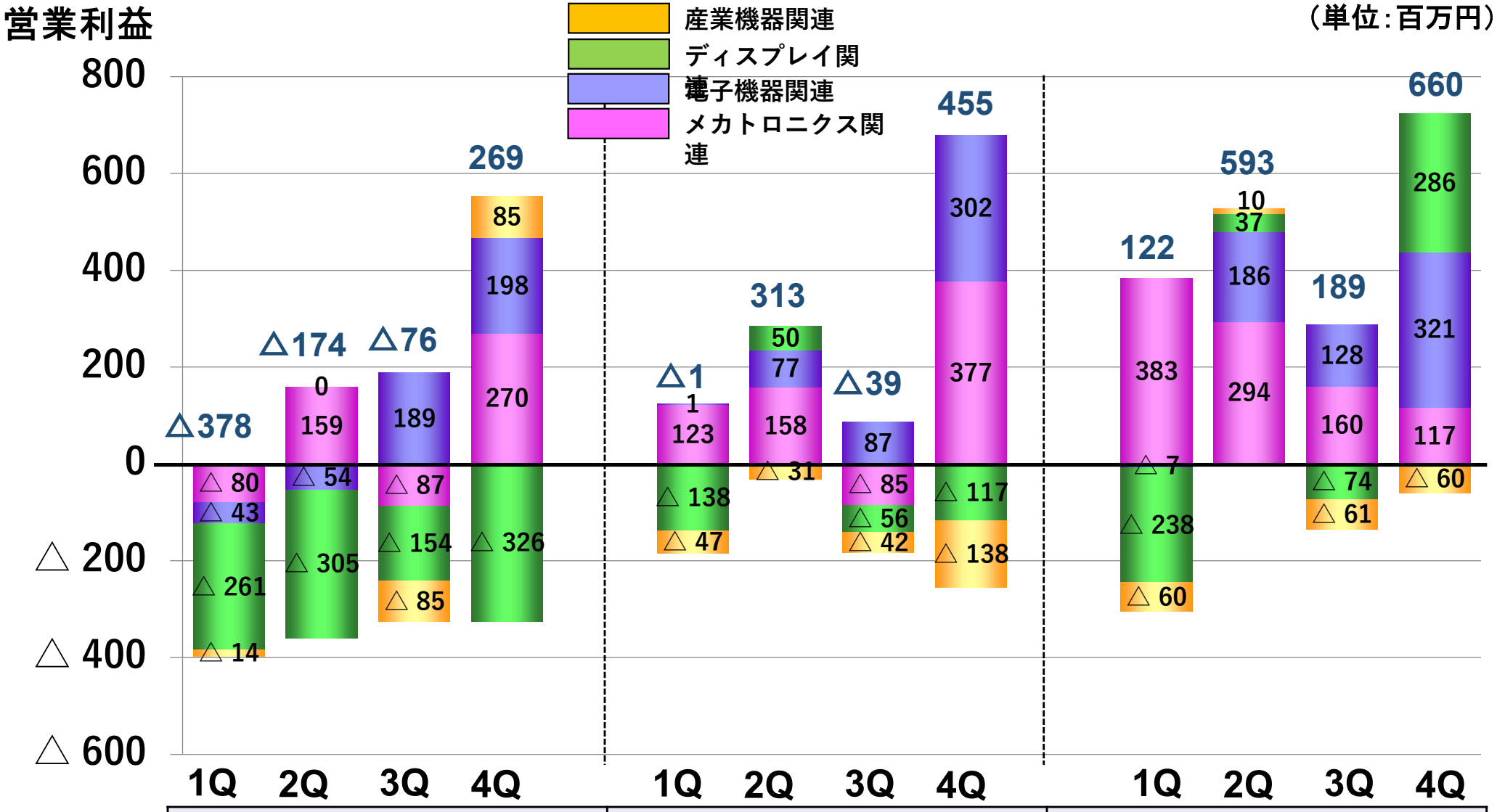
⑦ 事業別四半期毎　売上高



2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期
通期売上：21,914	通期売上：24,195	通期売上：22,796

Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

⑧ 事業別四半期毎　営業利益



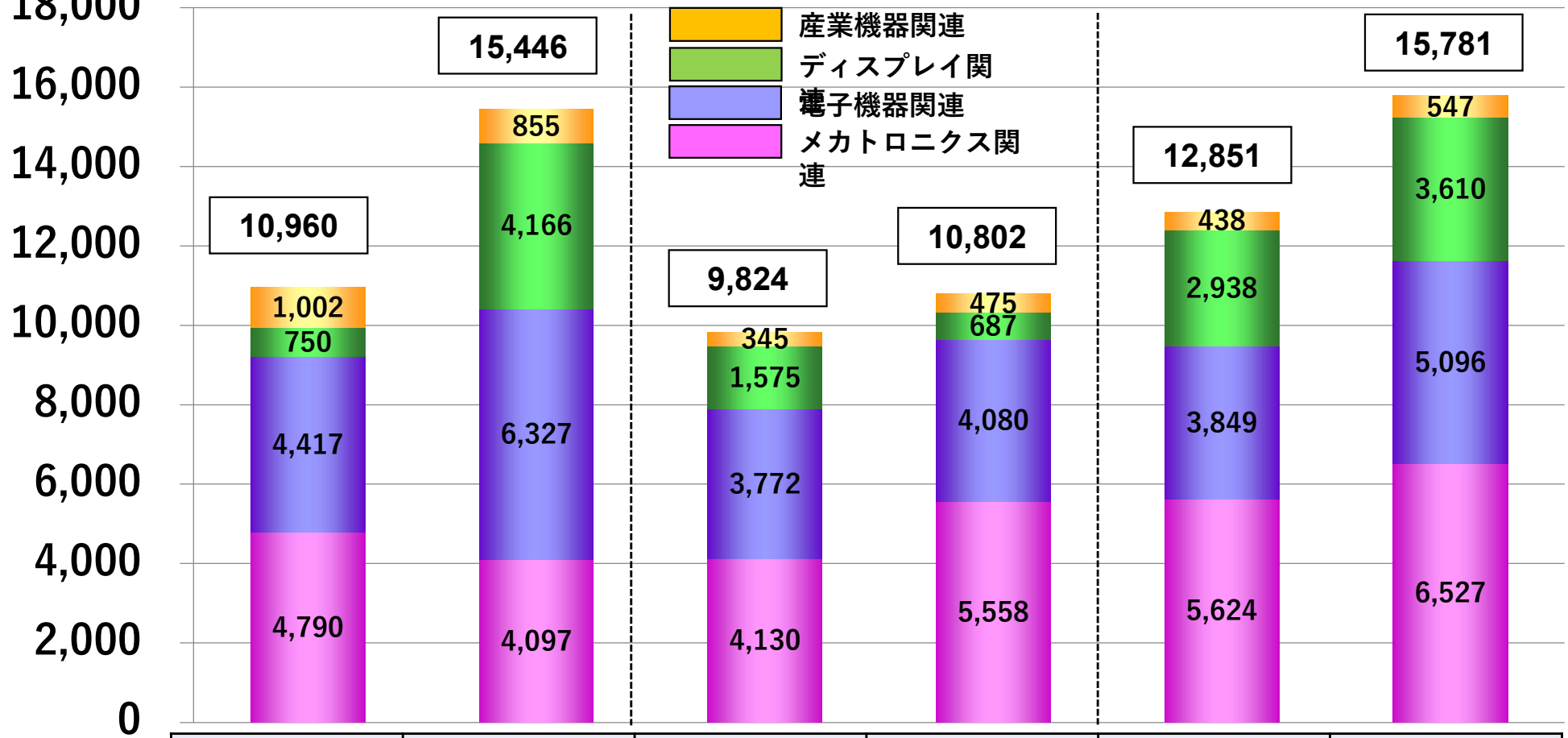
2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期
通期営利：△361	通期営利：727	通期営利：1,566

Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

⑨ 事業別半期実績　受注

（単位：百万円）

（連結ベース）



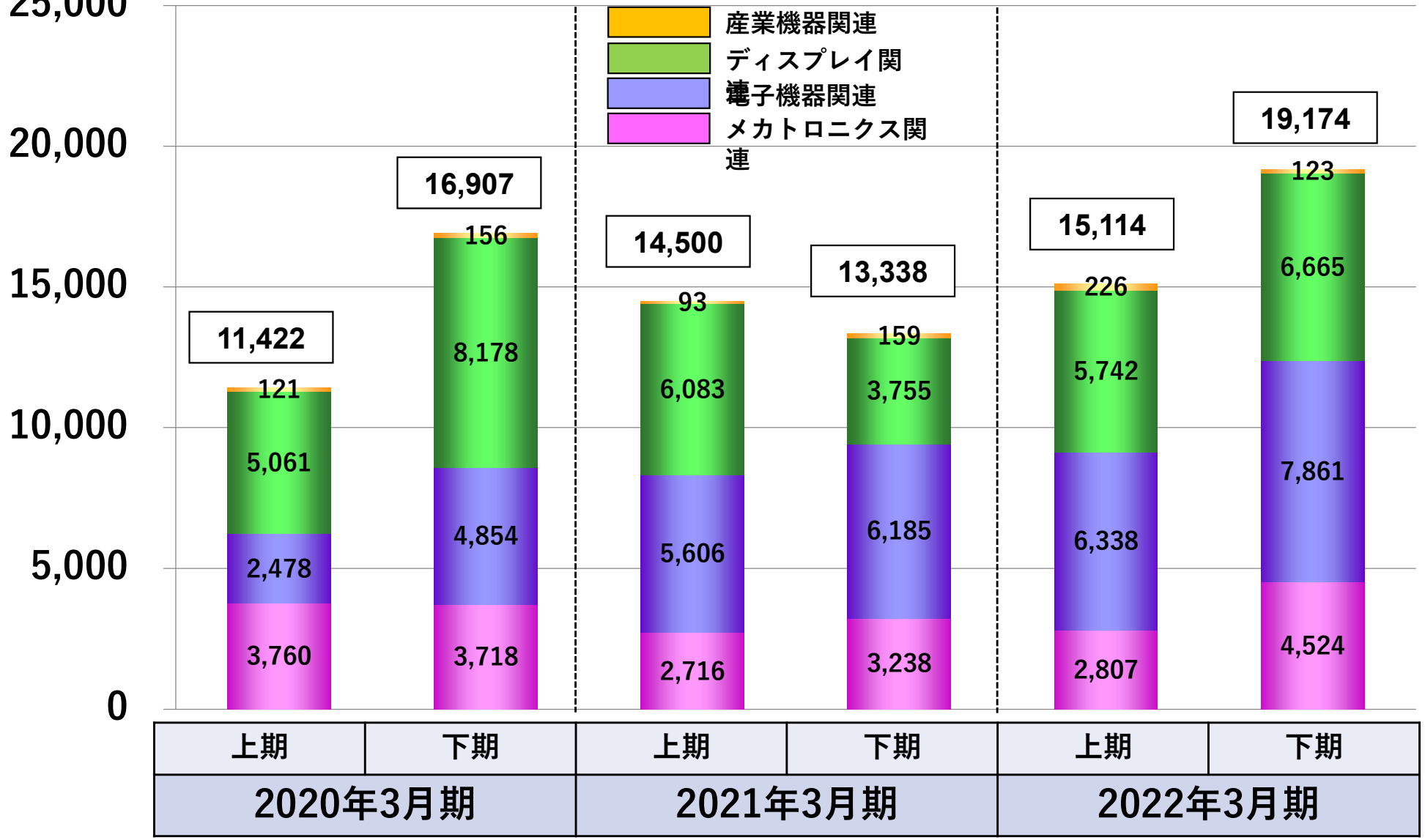
上期	下期	上期	下期	上期	下期
2020年3月期		2021年3月期		2022年3月期	
通期受注高 26,407百万円		通期受注高 20,626百万円		通期受注高 28,632百万円	

Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

⑩ 事業別半期実績　受注残

（単位：百万円）

（連結ベース）



Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

⑪ NEDOからの公表

2022.05.19 「測定時間1分」と「超高感度」、2種のウイルス検出法を開発

概要

2019年から続く新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、全世界の多方面へ大きい影響を及ぼしています。こうした事態を受け、現在は施設の入り口などに設置した表面温度計による検知で、ウイルス感染が疑われる人の入場を防ごうとする対策が取られています。これを温度という副次的な指標ではなく、ウイルス保有か否かをその場で直接評価できるようになれば、より効果的にウイルスの持ち込みを防止できると考えられます。一方、現在広く用いられているスクリーニング検査のためのイムノクロマトグラフィー法（迅速抗原検査キットで使用）、あるいは確定検査のためのPCR法では、“その場検査”に求められる**迅速な測定と高い検出感度**の両立が課題となっていました。

このような背景の下、NEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）の委託事業「IoT社会実現のための革新的センシング技術開発」の中で、国立研究開発法人**産業技術総合研究所**（産総研）と国立大学法人**埼玉大学**（埼玉大学）は**コニカミノルタ**株式会社、株式会社**ワイエイシイダステック**と共同で、施設などの入り口に設置することで来訪者のウイルス保有の可能性を1分で検知可能なシステム“ウイルスゲートキーパー”の研究開発に取り組んでいます。ウイルスゲートキーパーは、来訪者が綿棒を口にくわえて唾液を採取し、それを装置にセットするだけで、**1分後にウイルス保有リスクを自動判定する装置**です。このシステムの実現に向けた研究開発の中で、産総研と埼玉大学はデジタル検出法と呼ばれる高感度バイオセンシング法をベースに、二つの新しいウイルス検出法を開発しました。

なお、本成果の詳細は2022年5月12日に「Analytica Chimica Acta」に掲載されました。

Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved

さあ今日も、明るく、元気よく

ときめきと感動の日々であれ！

しなやか先端技術企業集団

ワイエイシイグループ

Copyright ©2022 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD. All rights reserved